

重点施策点検・評価表

3-1-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)
	① 達人講座の実施		生涯学習課
	活動内容	地域のサークル等の講師(達人)が、小中学生(親子含む)を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施する。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) コロナの影響で活動を自粛していた先生方の講座(梅ジュースを作ろう、花育体験講座)が復活したほか、今年度新たに4講座(卓球体験、走り方教室、スイーツを作ろう!、フラワーアレンジ体験)を加え26講座実施した。 前年度までは文化系統の講座が多く、スポーツ系統が1講座(少林寺拳法)のみであったが、今年度は2講座増やすことができた。 今後もスポーツ系統のみならず新たな分野の講座を開催できるよう努めている。 ・令和3年度:25講座(申込者数437人、前年度より52%増) ・令和4年度:22講座(申込者数442人、前年度より 1%増) ・令和5年度:26講座(申込者数527人、前年度より19%増)	
	課題等	後期ではスポーツ系統の講座を開催することができなかったため、来年度、現在講師を務めてくださっている先生方に交渉するほか、新たに冬に講座を開講できる講師の先生を探すようにしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	目標を上回る人数で非常に良い事業だと思う。 コロナが明けて、ますます活性化すると思われる中で、冬季間の講座開設の検討も含めて、さらなる努力に期待する。	

重点施策点検・評価表

3-1-2

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」及び「大館市出前講座」の充実と活用	生涯学習課
	活動内容 「大館人財名簿」: 高等教育機関(大学、短大)や学校ボランティア、公民館等から人材を発掘し、特技や知識を持つ市民を「人財」として募集・登録すると共に登録情報の更新を行い、学校や公民館などさまざまな学習活動の場で活用を促す環境の整備を図る。小中学校25校、社会教育施設等17か所に名簿を配置すると共に、市ホームページも更新する。(活動報告書を提出していただき、実績を把握する。) 「大館市出前講座」: 市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座(65講座)」を実施し、利用件数150件、受講者数7,000人(延べ)を目指す。	
	点検評価 ☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 【人財名簿】人財名簿への新規登録は1件、活動実績は0件だった。 令和4年度実績 登録50人 18団体 令和5年度実績 登録31人 14団体 登録人数、団体数は、登録状況を再確認したところ、亡くなっている方や高齢化による活動の休止などにより減少となった。差し替え名簿を配置先へ送付するとともに、5月19日に市ホームページを更新した。ホームページだけでなく広報8月号に掲載し、利用促進を図った。 【出前講座】新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、昨年度よりも利用件数が増加した。結果としては258件、7,541人の受講となった。 メニュー講座として、「救急や防災に関する講座」、「ボッチャ体験」、「木育を体験しよう」の申し込みが多かった。 メニューにないものの担当課が受け入れた特別メニューの講座としては、「おひなさま展について」、「認知症・フレイル予防について」の2件であった。	
	課題等 【人財名簿】より広い周知をして登録件数増加や利活用の促進を図っていききたい。名簿の内容は随時チェックしながら更新し、使いやすさを維持していく。利用実績を明確にしていくため、仕組みづくりが課題となっている。 【出前講座】メニュー65講座のうち利用のない講座もあるので、市民ニーズにあったメニューの見直しとより一層の周知をしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見 コロナが明けて、活動が増加傾向になってきている。人材名簿を整理したのは良かったと思う。 4年度、5年度の登録人数が下がっているが、亡くなった方や休止状態にある方などの把握をしたためだと思われる。 今後もニーズを把握し、この事業が充実、発展するよう期待している。	

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める		担当課(館)
	③ 公民館事業への青少年の参加促進		中央公民館
	活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全7回延べ70人、ラジオ体操開始・修了大会10団体100人他を予定。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行したものの、感染対策などを講じて事業をできるだけ実施するというスタンスで取り組んだ。休日や夏・冬休みの小中学生を対象とした事業は、「将棋・囲碁教室」、「新春書初め」などのほか、地区公民館では「星空観望会」、「サケの放流事業」、「ひまわり畑で撮影会」など特色ある事業に取り組んだ。事業の中止はほとんどなく実施できた。「わんぱくスクール 全8回、延べ61人」、「囲碁、将棋教室 各3日、延べ56人」、「ラジオ体操開始大会 9団体、約100人」、「ラジオ体操修了大会を大館市ハチ公生誕100年記念協賛事業(みんな元気にラジオ体操ワンツー・ワンツー) と共同開催 7団体、約140人」	
	課題等	今後も、小中学生が興味を持つようなイベントや活動内容を大学や企業等の協力を得ながら、新たな取り組みを企画する。「わんぱくスクール」や「キッズカレッジ」、「たしろ学舎」などの事業で実施した複数館合同での事業実施は、今後さらに必要となる。子どもにとって身近な存在の公民館を目指す。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	児童数の減少等、単独開催ではなかなか参加者も集まりにくくなっていることを考えると、複数館合同での事業はこれからも継続して開催していくことは必要だと思う。 事業を開催する中で、参加人数は確かに大事だが、親子参加型など青少年が公民館に足を運びたくするような事業を期待している。	

重点施策点検・評価表

3-2-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	① 生涯学習推進体制の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、生涯学習推進協議会において協議すると共に、地域における学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研鑽と活動の充実を図る。社会教育主事の資格取得のための環境整備を行い、生涯学習推進体制へつなげる。(幹事会及び協議会を各年1回開催)	
	点検評価	☐ 目標を上回る ☒ 目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満) 生涯学習推進協議会では、7月に幹事会(書面協議)、8月24日に協議会を開催した。令和5年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。 また、生涯学習奨励員については、生涯学習フェスティバルへの参加及び協力や県及び北鹿地区の総会、各種研修会への参加などの活動を行った。	
		課題等	生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。 生涯学習奨励員には、学習した成果として、地域住民が各種行事や学習会などに参加できるよう、学習情報の収集と提供ができるようにしたい。
	学識経験者等意見	生涯学習奨励委員は各地区公民館、中央公民館などから推薦され、生涯学習フェスティバルへの参加及び協力、各種研修会への参加など地区を代表して行事に参加していただいている。	
	奨励員21人の方々のやりがいがある。生き甲斐や、やり甲斐を追求しながら取り組んでほしい。		

重点施策点検・評価表

3-2-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	② 大館版リカレント教育事業の展開		生涯学習課
	活動内容	人生100年時代に対応して社会人の学び直しの機会を創出し、市民の学び直しを支援する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 働く学部ではオリジナル講座を64回、全体として延べ820人が受講した。今年度も本事業へ企業版ふるさと納税による寄附があったことから特別講座を開催したほか、大学連携講座、女性活躍講座等特色ある講座を開催した。また、企業とのつながりを構築し、学び大学を通じて企業と市民の学びの場を展開することができた。 ・令和4年度:22講座(受講者数288人) ・令和5年度:71講座(受講者数897人) 211%増	
	課題等	オリジナル講座では、リピーターはいるものの、受講者は限定的になっていることから、より周知を強く広く行いながら、市民ニーズをとらえ、受講者数の掘り起こしを行う。また、大学・企業連携による講座内容の充実、市民の学びの場を構築していく。今後は、大館学び大学事業として、中央公民館を主軸にして、継続実施していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	前年度に比べ、参加者数が大幅に増えている。多くの市民の方々が利用してくださった結果で、各講座の工夫が生かされている。今後も中央公民館を中心に行っていく方向でニーズを把握しながら、講座の内容を充実させていただきたい。また、情報の発信について、工夫していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-2-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	③ 高齢化社会に対応した生涯学習の充実		中央公民館
	活動内容	公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や、高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学102人全10回、各地区公民館高齢者学級開催(11館)。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		定年延長などにより、60歳代でも働いている人が増えているため、事業参加者の高齢化が進むとともに参加者数の減少がみられる。 健康寿命の向上や生き生きとした生活を過ごすための魅力ある講座の提供を考え、興味を引く内容の事業展開ができた。 特に城南小学校5年生66名が老壮大学の学習日に、よさこい2曲を披露し、老壮大学生の学ぶ意欲を向上させてくれた。 ○今年度実績 老壮大学 全10回学生102人(前年度全9回110人)ほか全地区公民館(11館)でも高齢者学級を実施 新春書初め交流会 11人(前年度25人)中央公民館 " 40人(前年度20人)比内公民館	
	課題等	近年は60歳を過ぎても就労している方が多くなっている。 今後は、そういう方たち向けに夜間や休日に事業を実施するなどの工夫が必要である。また、健康寿命を延ばし生き生きとした生活を過ごすための笑顔で楽しく学んでいく講座を考えていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	全てのニーズに対応することは難しいと思うが、これまで開催してきた書初め交流会なども大事にしながら、ニーズを的確に捉えた講座の開催など、魅力あるものとなるよう期待している。	

重点施策点検・評価表

3-2-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	市民版ふるさとキャリア教育を推進し、社会人の学び直しを支援する		担当課(館)
	④ 障害者のための生涯学習の推進		生涯学習課
	活動内容	比内支援学校及び障害者施設との連携により、障害者の生涯学習の機会を創出し、共生社会の実現に向け持続可能な活動の実践研究を行う。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	点検評価	文部科学省より事業3年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を5回、障害者にとって、自らが望む生涯学習活動や余暇の充実を図る活動を、合理的配慮を受けながら行える共生社会実現への実践研究を継続した。 成果として、①市民(支援者)においては心のバリアフリー、合理的配慮を学ぶ機会を提供し、学びと実践を継続的に行った。 ②就労施設などを訪問し、ニーズ調査を実施して今年度の講座企画へ反映させることができた。 ③なんでも発表会では市民文化会館のステージで自らの生涯学習の成果を発表し、たくさんの拍手をもらうことができたことが参加者の自信につながったと評価している。 講座全体の参加人数について、生涯学習講座は延べ193人が参加し、うち障害者は62人の参加であった。講座のほかに、比内公民館や栗盛記念図書館などで行った障害者の活動を広げる取り組みは、305人、ボランティア養成講座は、県及び障害者自立・差別解消支援協議会との連携を行い、80人が参加した。	
	課題等	課題としては、講座参加者同士のつながりの構築、社会教育施設における障害者が参加できる講座企画、講座情報の継続的発信。 また、サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障害理解の機会提供などがあげられる。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	合理的配慮を受けながら共生社会に向けて、非常に良い事業だと思う。 困難な状況もあると思うが、4年目に向けてさらに事業を展開していただきたい。また、比内支援学校以外にも障害者の就労施設があるので、そこを巻き込んで活動していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	① 学校支援活動事業の推進		生涯学習課
	活動内容	市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。 学校運営協議会の構成員又はCSディレクターの役割として、地域学校協働活動推進員が参画する。(R4年度は、25校中4校)	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校運営協議会の構成員として地域学校協働活動推進員が参画し、学校と地域の連携・協働を図った。(R5年度は、25校中23校) ①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。 ②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。 ③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。	
	課題等	学校が抱える課題や地域と連携・協働して取り組むべき課題について、十分な情報共有と一体的な推進を図るため、学校運営協議会の構成委員として地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が参画できるよう周知・啓発に努める。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	教育長から冒頭に話が合ったように、全小中学校が学校運営協議会を立ち上げているが、やっていくうちにいろいろな問題点が出てくると思われる。 ふるさとキャリア教育活動の蓄積したものが大館市にあるので、地域コーディネーターが参画しやすいように、周知・啓発に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	② 家庭教育の充実		生涯学習課
	活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座(40講座)」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	点検評価	○「おしゃべりひろばひだまり」 毎月1回、全12回全て開催。……参加者152人(託児含む) ○「子育て講座」 予定していた全40団体全て開催。前年度まで自粛していた親子できりたんぼ作りやお茶会等の食育講座が増加した。……参加者1,850人 ○「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おおとり教室」ふれあいお楽しみ会(餅つき体験、しめ飾り作り)……参加者28人、ボランティア4人 ・助産院イスキアの菅原光子先生による孫育て講座……計3回、参加者54人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会 「ひとりでできないことはみんなで ～地域の子どものために、誰と、どこで、何ができるか～」講師:NPO法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間恵美氏 ……参加者71人(オンライン参加含む) ・特別支援学級でのニュースポーツ等体験……計3回、参加者計26人 ・「Let'sGo! 木育ひろば」……計8回、参加者606人	
	課題等	特別支援学級での活動支援について、これまでは東中学校を対象に体験講座を開催していたが、他の中学校からも要望があったため、来年度は市内の小・中学校に対して開催について希望調査を行い、必要に応じて実施対象の拡大について検討したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	家庭教育の事業は、親の横の連携が大事なものになる。 未来の大館市民を育てていくという意味あい、いろいろな支援をしていくことで明るい未来が見えてくる。期待をしている。	

重点施策点検・評価表

3-3-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	③ 音楽療法士派遣事業		生涯学習課
	活動内容	継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。全24回予定。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に20回の派遣を実施した。 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。	
	課題等	上半期は学校の行事等で申し込み数が例年より少なかったが、下半期は児童・生徒からの要望などにより一気に申請数が増え、結果として予定回数となった。 児童生徒のリピート率が高く、今後も音楽療法士の派遣事業は継続していきたい。また、講師の負担を減らすため、開催時期が集中しないよう事業周知を早めに行うなど事務作業の調整をしていきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	毎年ニーズが高く、音楽療法士1人で頑張っている。 学校の事情で要請の時期が重ならないように事業の周知、事務作業の調整・予算を工夫していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	④ 青少年健全育成活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年健全育成推進方針を策定し、関係機関と連携を図りながらさまざまな活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。 (参集者目標:100人)	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。 また、7月2日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、Odate Marching Band TEDAOLE and 大館ジュニアバンドによるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田県教育庁北教育事務所社会教育主事による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と社会を明るくする運動の啓発に努めた。 (参集者数165人)	
	課題等	中央公民館を会場とするため、密になりすぎない程度に人数を制限し、今後も7月第1土曜日に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	長年の歴史のある活動で、青少年関連団体の皆様には頭が下がる思いがある。 以前のように行進がなくても、青少年健全育成活動を充実させていただきたい。一時は参加者が少ない時もあったが、今後もアイデアを出し、啓発活動に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-3-5

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	⑤ 少年相談センターの活動の充実		生涯学習課
	活動内容	青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。また、少年指導員28名により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動、神明社祭典に伴う各講練習時の巡回活動、卒業式の市内巡回活動、生徒指導主事協議会との合同巡視などを通して、青少年の健全育成に努めた。(少年指導員の年間活動延べ200人)	
	課題等	令和5年度の相談件数は、延べ413件となっており、過去最多件数を更新した。(令和5年度実績:322件) また、2人体制による相談センター業務であり、相談件数の増加に対応できるよう業務内容の見直しを図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	青少年の健全育成を陰で支えてくださっている。相談件数も増えており、2人の業務量を考えると、新たな手段を講ずる必要があるのではないかと思う。 例えば2人、プラス・アルファなどで検討してはどうか。予算の関係もあると思うが、早急に対応するべきではないか。	

重点施策点検・評価表

3-3-6

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
3	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		担当課(館)
	⑥ 社会教育委員の活動の充実		生涯学習課
	活動内容	生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上(延べ)の参加を目指す。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) ○北教育事務所主催の学校訪問は9回(13校)、市教育研究所主催の授業見学は5回開催された。 北鹿地区社会教育委員研修会は、令和5年10月19日に北秋田市「ふれあいプラザコムコム」において開催された。本市からは阿部委員長ほか2人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。 そのほか、当課主催の講座や研修会など計23回の案内に延べ54人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言など学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。 令和3年度 訪問等 延べ参加人数 58人(16回) 令和4年度 訪問等 延べ参加人数 50人(18回) 令和5年度 訪問等 延べ参加人数 54人(23回) ○第8次大館市社会教育中期計画の改定に関わる会議は、計4回の会議を開催し、北教育事務所主任社会教育主事櫻庭直氏にアドバイザーとして参加していただき、各委員から積極的な意見が出され、中期計画に反映させることができた。	
	課題等	社会教育委員の活動を通して得たものを第8次大館市社会教育中期計画(令和6年3月改定)に反映させることができた。 今後は、ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向け、見える活動を展開することと、地区公民館訪問の再開が課題となっている。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に関わる社会教育委員としての活動を、今後も展開していただきたい。 生の現場を見ることによって、より社会教育委員として必要な活動ができるものと思われる。	

重点施策点検・評価表

3-4-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
4	高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		担当課(館)
	① 高校生・青年層対象の生涯学習ボランティア養成講座の実施		中央公民館
	活動内容	高校生や若い世代に公民館活動の紹介と生涯学習ボランティア活動を体験してもらい、公民館の積極的な活用を促進する。「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続して実施するとともに、今までの活動を継承しつつ、大学生の意見も取り込んでいけるような体制を整える。また、各公民館事業に中学生、高校生、大学生のボランティアを活用し、公民館活動に積極的に参加してもらう。(11館)	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☒ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 「HACHI」のメンバーは全15人。参加校は全て鳳鳴高校生となり、メインとなる「ハチウィン」を開催することができた。 きらきらフェスタへのボランティア参加、生涯学習フェスティバルでは、「児童との交流コーナー」を実施した。 今年の目標は、市内各高校からメンバーが集い、テーマを設けて自分たちにできることを考え活動することとし、月1回以上(延べ130人)の会議を行うことであった。しかし、テーマを設けずに「何をやりたいか」から始めたため、結果的に自分たちに何ができるかを明確にできないまま、学業や学校行事が忙しくなったため、今年度は活動回数が3回、延べ13人(前年度16回、延べ135人)となり、目標を下回る結果となった。	
	課題等	「HACHI」のメンバーは大館鳳鳴高校生のみのため、他の2校の生徒に呼び掛けはしたが、参加につなげることはできなかった。また、大学や大館青年会議所など外との連携を行い、未来づくりについて意見を出すなど幅を広げる活動へ支援していく必要がある。 肩のこらないメニューで参画してもらい、高校生が描く大館市の未来像を作ってもらうことも提案していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	思うような活動ができなかったようだが、これは、継続事業の課題でもあると思う。今年度は、新たなメニューでの活動が予定されているようなので、高校生が集う楽しい活動となることを期待している。また、地道に活動していれば、OB・OGも大館に戻って、街をよくしたいと考えるようになると思う。	

重点施策点検・評価表

3-5-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	① 「生涯学習フェスティバル」の実施		生涯学習課
	活動内容	社会教育施設・各種機関・団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人一人の生涯学習への意欲を高める。メイン開催日(2日間)の会場となる中央公民館の来場者数目標を2,000人とする。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☒ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど、各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は6,147人。 9月24日、25日の中央公民館会場では、新型コロナウイルス感染症対策のためサークル協議会による食堂開設は見送ったが、おおむね通常どおり開催することができた。 木育キャラバンをはじめ、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示のほか、大館桂桜高等学校生徒によるものづくり体験など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。 当日はスポーツ関係のイベントと重なったことから、2日間の来場者実績では1,722人となり目標値をやや下回ったものの、強調月間である9月、10月の延べ参加・入場者数は6,000人を超え、一定の成果が見られた。	
	課題等	今後は、サークル協議会の食堂開設も含めた通常開催を検討していく。また、行事・イベントが重複しないよう庁内や関係団体などと調整し開催する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	目標値としての参加人数だけでなく、参加してくださった方が楽しめるような、あるいは満足できるようなイベントとなればよいのではと思う。また、食堂の開設は、いろいろ課題もあると思うが、ぜひ検討していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-5-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	②「大学公開講座」、「大学校市民講座」の開催の実施		生涯学習課
	活動内容	市民の高度化・多様化した学習要望に応えるとともに、高等教育機関に対する理解を深めるためにそれぞれの特徴を活かした市民の公開講座を各年2回開催する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、7月4日から6日までの3日間で開催し、倫理、助産師の歴史、看護と介護の連携をテーマにした講義を実施した。受講者数は延べ88人。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、生涯学習強調月間である10月中に3回開催し、3Dモデリング、かんなの使い方、マイコンプログラミングをテーマに講義を実施した。受講者数は延べ33人。	
課題等	秋田看護福祉大学の「大学公開講座」について、今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、4年ぶりに大学構内に戻して開催することができた。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開講座」は、大学校の特色・専門分野を生かした講座となっており、実際の参加者からは大変好評であるものの、テーマによっては難しい内容の講座と思われやすいため、参加しやすい募集・PRとなるよう検討していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	秋田看護福祉大学、秋田職業能力開発短期大学校の特色ある講座は、テーマの選択が大変難しいと思われるが、今日的課題などを工夫して事業展開していただきたい。		

重点施策点検・評価表

3-5-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	③ 地区住民や関係団体との連携強化		中央公民館
	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。 また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。 今年度は、8月に大館市総合防災訓練が真中公民館を主会場に行われた。公民館利用者や学校、町内会などと共催で避難訓練を実施している。	
	課題等	公民館は地域コミュニティーの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。 今後もより良い協力関係を築くよう努力し、有事における地区災害対策本部としての役割を想定した訓練を実施していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
学識経験者等意見	いつ起こるかわからない災害に対応するためには、訓練は必要不可欠なものであるが、地区の公民館などでは限られた職員数で対応しなければならないことを考えると、有事の際だけでなく、日頃からいろいろな面で地域住民がサポートできる体制を構築していくことが必要になってくると思われる。今後もより良い協力関係をもって活動してほしい。		

重点施策点検・評価表

3-5-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	④ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化		中央公民館
	活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている、地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		釈迦内公民館と花岡公民館の大規模改修が実施された。 今後も地元の意見・要望を聞きながら、年次計画を組んでストーブ、AEDなど備品の更新を進めていく。	
課題等	地区公民館分館は30施設あるが、老朽化した施設が多く計画的に整備しても長期に渡ることから、その間に突発的な修繕が多々発生する。また、建物以外でも暖房機器の老朽化が進み、故障の都度修繕で対応しているが、計画的に更新する必要がある。 地区住民の生涯学習の拠点として機能するため、限りある財源の中で優先順位を適切に判断し、予算確保の努力を継続する。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度	
学識経験者等意見	施設の老朽化が進んで突発的な修繕もあると思うが、避難所になっていることを考えると、根気強く予算の確保に努めてほしい。修繕等についても施設が多いため、一度にはできないと思うが、住民や利用者の要望を聞きながら優先順位を決めて進めていってほしい。		

重点施策点検・評価表

3-5-5

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援	
重点施策		
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
	⑤ 公民館事業の充実と参加促進	中央公民館
	活動内容 公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。	
	点検評価 ☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 各事業の実施後、参加者から事業内容に関する意見や要望などアンケートを取り集約している。地区公民館では町内会や関係団体との会合等で常に意見要望を出してもらい、今後の事業に反映するように努めている。 今年度、二井田公民館が「文部科学省の第76回優良公民館表彰」を受賞した。これまで、二井田三大魅力と銘打って「安藤昌益」「忠犬ハチ公の生誕地」「錦神社の歴史」など、地域素材を活かし、地域住民に二井田地区の歴史、文化、先人といった地域の歴史を知ることによって地域を誇れる素地を醸成する活動や防災訓練も地域と一緒に活動したことが評価されたものである。 また、二井田公民館が幹事を努め、矢立・花岡・下川沿・真中・比内の5館が協力して開催した「サタデーナイト公民館ディスコ」は、60人を超える地元住民らが参加し、大成功であった。	
	課題等 地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのため、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動(社会貢献)を活用して事業を充実させる。また、他市町村を参考にしたり、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見 地区公民館が連携した事業など工夫された事業展開がされていると感じる。デジタルだけでなく新聞や広報等活字を利用した募集も大切なことだと思う。事業にも動きがみられていて、いい方向に進んでいると感じている。若者も気軽に立ち寄れる公民館となるような公民館事業を進めてほしい。	

重点施策点検・評価表

3-5-6

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
⑥ 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施		生涯学習課	
活動内容		放課後の児童が「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。各施設の児童を交流を図るために、カルタ大会等の交流事業を年2回行う。定例会開催は月1回行う。	
点検評価		☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 昨年度感染症の影響により自粛していたクラブでの季節の行事やイベントを再開し、児童に対して放課後及び土曜日等の体験活動を提供することができた。 交流事業としては、昨年度中止となった直営全体でのドッジボール大会を再開したほか、カルタ大会については中央公民館で開催したクラブ対抗の本選において、保護者の観覧を4年ぶりに再開することで、クラブ間での交流の場、親子のコミュニケーションのきっかけ作りに寄与することができた。 定例会は毎月1回開催し、定例会終了後に研修会を2回、各クラブの情報交換会を3回開催した。 令和6年4月から義務化される「児童仲良クラブ安全計画」の策定と、日々の安全計画の土台となるマニュアルを策定することができた。	
課題等		交流事業においてはクラブ間で参加できる児童数の差が大きくなっており、全ての施設の児童が参加しやすい内容について各クラブと協議し改善を図っていきたい。	取組の方向性
国の新・放課後子ども総合プランによる高学年児童の受入れについては、施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。また、放課後児童クラブでの事故防止と事故発生時の対応として、3月末に安全管理計画策定の予定で、今後は安心安全な放課後児童の居場所作りと保護者への周知を行う。また、支援員の研修の場の充実を図ることが求められている。			
学識経験者等意見		放課後児童クラブは、親にとっては頼りにしている施設であるため、クラブ間の交流や体験活動など充実させていただきたい。また、児童仲良しクラブ安全計画の作成は、より安全安心な放課後児童の居場所作りのため、必要な計画である。	
		今後は、支援員の資質の向上などの充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-5-7

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑦ 「大館ふるさとカルタ」の普及とカルタ大会の開催		生涯学習課
	活動内容	カルタの普及を目的に、カルタ大会を開催する。また、カルタを通して、ふるさとの歴史を学び、郷土愛を育む機会を作る。カルタ大会の運営に高校生ボランティア(目標5人)を募り、児童との交流と審判・読み手の育成を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 今年度で4回目の開催となったカルタ大会では、市直営の放課後児童クラブ全9クラブから予選を勝ち抜いた児童が参加し、中央公民館で本選を行った。事前に各クラブで行った予選や本選のための練習では、読み札を暗記した児童が読み手を務めた。 本選では審判や読み手として、高校生6人にボランティアとして協力いただいた。また、昨年度まで中止していた保護者の観覧を再開し、試合後に自由に試合ができる場を開放したことで児童は家族や兄弟姉妹とカルタを楽しみ、保護者にもふるさとカルタに興味を持っていただいた。 大会終了後の各クラブでは、予選や本選実施後に行った報告会の影響により、本選に参加していない児童や高学年生も大館ふるさとカルタに関心を持ちクラブの自由時間に遊ぶ姿もみられ、普及の一助を担えたものと考え。	
	課題等	一部のクラブで加入児童数や参加希望者数の減少などの理由により、不参加となった学年や、2クラブ合同チームで参加した学年があった。カルタ大会を今後も継続して開催していくとともに、大会の時期だけではなく、児童クラブにおいて日頃から大館ふるさとカルタに親しめるよう新たな取り組みを見い出した。また、学校で作ったカルタの活用も図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	ふるさと教育に触れる良い機会である。 高校生ボランティアが参加していくことで、読み手や審判を行い、普及促進につながるようになったのではないかと。また、保護者も子どもたちと一緒にカルタを楽しんでいたことは、親子の交流にもつながり、大変良い取り組みである。	

重点施策点検・評価表

3-5-8

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
5	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		担当課(館)
	⑧ 木育事業の実施		生涯学習課
	活動内容	移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 前年度に引き続き、移動型木育ひろば「Let'sGo! 木育ひろば」を介護老人保健施設、児童センター、秋田犬の里などで計8回実施し、幼児から高齢者まで延べ606人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。 今年度で5回目となった移動型おもちゃ美術館「木育キャラバン」については、2日間で延べ1,722人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。 また、開催にあたり市内の木育インストラクター23人、高校生11人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。	
	課題等	より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。 秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクターによるお話やイベントを通して周知していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	幼児から高齢者までの交流の場を通じて、おもちゃに触れあいながら木の良さや自然環境の保全を周知していくことは、非常に広がりを感じた事業である。 木育インストラクターを活用し、事業の充実を図っていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-6-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
6	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		担当課(館)
	① 図書館運営に関する進行管理		生涯学習課
	活動内容	指定管理者の提案書に基づく適正な運営への必要な支援と指導を行うと共に、第四期市読書推進計画を指定管理者と共有し、図書館サービスの向上を図り「生涯読書」活動を推進する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 指定管理者による令和5年度事業計画と数値目標を提出してもらい、計画的な図書館及び松下村塾の利用促進と読書の啓発活動に努めている。 利用促進としては、コースや絵本のガチャガチャ等の新たな催し物を加えた図書館まつりの開催のほか、絵画や絵手紙等の展示会、吉田松陰と松下村塾を題材とした資料展や松陰神社(山口県萩市)宮司を招いての講演会など、さまざまなイベントを開催している。 また、読書啓発活動としては、今年で54回目となる大館市読書感想文コンクールを開催や本を借りてビンゴゲームをする「図書館でビンゴ」、読書の幅を広げる「本のおたのしみ福袋」など、工夫を凝らした読書啓発活動に努めている。 (来館者数:目標130,500人、実績見込136,260人) (貸出冊数:目標200,000冊、実績見込197,714冊)	
	課題等	人口減少や社会情勢の変化を踏まえながら、図書館等の利用促進や読書の啓発活動として読書環境の整備や情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	吉田松陰や松下村塾を題材とした講演会、ビンゴゲームを活用したイベントなど特色ある内容で工夫している。 先日、花矢図書館が貸し出しに工夫している様子がテレビで紹介されていたが、ますます市民に親しまれる図書館を目指し、指定管理者側とも連携し、図書館を運営していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-7-1

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課(館)
	① 芸術文化鑑賞の機会の提供		生涯学習課
	活動内容	指定管理者との連携により、ほくしか鹿鳴ホール自主事業及びさらなる鑑賞機会の充実を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		指定管理者による令和5年度事業計画を提出してもらい、計画的な自主事業等の開催と施設の維持管理により施設利用の促進に努めている。 大館ジュニアコーラスやヴァイオリンクラブなどの次世代の担い手育成事業のほか、市民参加型のピアノマラソンの開催や和太鼓集団DRUM TAOによる新作公演など良質な鑑賞機会の提供など、芸術文化の振興に努めている。 (来館者数:R4年度61,714人、R5実績64,990人)	
	課題等	ほくしか鹿鳴ホールも建築から40年以上が経過し、改修等を行いながらも年々経年劣化が目立ってきている状況だが、今後も市民と共に楽しみ・喜び合える文化事業の実施や多彩で魅力ある集客力のあるイベントを開催し、文化芸術活動の継続・発展に努めていく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	施設が老朽化しているのは承知しているが、大館市では唯一の施設であるため、維持管理についても予算面の制約があると思うが、課題をクリアして施設の充実、維持管理に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-7-2

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援		
重点施策			
7	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		担当課(館)
	② 芸術文化に対する事業の積極的な周知・活用		生涯学習課
	活動内容	文化庁等が所管する各種事業の情報を学校、文化施設、関係団体へ積極的に周知、活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 市内芸術文化連盟・協会等に対する秋田県芸術文化振興基金やニッセイ財団等による助成事業の周知のほか、小中学校には子どもたちが質の高い芸術活動を身近に感じられる機会として文化庁「文化芸術による子どもの育成事業(巡回公演事業・芸術家の派遣事業)」「子どものための文化芸術鑑賞・体験支援事業」等の周知や取りまとめを行った。 令和5年度は3校の申請があったが、2校の実績となった。 文化庁より6年目となる「伝統文化親子教室事業」を受託し、今年度は着付けと生け花体験、秋田犬の歴史講座及び特性講座、囲碁講座、和菓子作りと茶道体験、アメ作り体験講座を実施し、参加者は154人であった。 「秋田犬の歴史及び特性体験講座」では、渋谷区の子どもたちも一緒に参加し、秋田犬について学び理解を深めるとともに秋田犬絵画展につながる講座となり、市内や渋谷区からも多数の応募があった。 通常の生活ではなかなか体験することができない、さまざまな伝統文化に触れることができる「直接体験」の機会を子どもたちに提供し、子どもたちの創造力、探求心、表現力を磨き、豊かな人間性を育む事業となった。	
	課題等	少子高齢化により郷土芸能を継承する地域の人材の確保が困難な状況となっている。加えて、学校統合により地域の歴史や伝統文化を保存・継承・発展させていくことが困難になっている状況も生まれている。 各小中学校において、地域の自然・文化に触れる体験や地域の人々との交流など、地域の特色・資源を生かした教育活動を進めることにより、郷土を愛し、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図りたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	日常ではあまり体験できない機会を提供し、子どもたちの豊かな人間性を育み、伝統文化の継承につながったことは非常に大切なことである。今後も、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図っていただきたい。	